

学校関係者評価 報告書

評価日時：令和8年3月10日（火）15：00～16：30

評価委員：

委員長 教育学講師 教育委員会特別支援教育スーパーバイザー
委員 病院 看護部長
委員 卒業生
委員 高校 進路指導部長

学校出席者：教育主事、次席、実習調整者、カリキュラム担当者

議 事：1) 教育主事・教員から以下の2点を説明
・学校重点目標に対する取り組み、今後の課題等の報告
・令和7年度自己点検・自己評価結果の報告
2) 今後の課題等の意見交換、検討

重点目標：1. 地域社会のニーズ・学生のニーズに応じた質の高い看護教育の実践
2. 国立病院機構及び京都府の医療・看護を担う学生の確保と育成
3. 学生・教職員等が安心して学べる教育環境の整備
4. 教員の教育実践能力の向上

重点目標に対する取り組みと今後の課題：

【重点目標1】地域社会のニーズ・学生のニーズに応じた質の高い看護教育の実践

- 取り組み：1) 地域包括ケアシステムを担う人材の育成
- ・地域で生活する対象の理解と個々の生活と健康に応じた支援の理解に向けた取り組み
 - ・学びの場の提供と意図的指導の実施
- 2) 国家試験合格率100%に向けた学習支援
- ・1年次から国家試験を見据えた学習支援対策の実施
 - ・要学習支援者への学習支援の実施
 - ・国家試験合格率の推移状況
- 3) 学生の状況に応じた実習指導の充実にに向けた臨床との連携強化
- ・学生到達度を見据えた実習指導内容・方法の共有、評価結果の活用
 - ・実習指導者育成に向けた支援の実施
- 4) 学校評価委員会の組織的活動
- ・カリキュラム評価結果（カリキュラム評価・科目評価・満足度調査・教育目標到達度）
 - ・看護技術経験状況
 - ・卒業時到達目標の到達度結果
 - ・社会人基礎力調査結果
 - ・自己点検・自己評価結果

○課 題：・国家試験合格に向けた学習支援について、今年度の実施状況を評価し継続していく。
・実習指導の充実に向けて、臨床との連携の強化を行っていく。
・技術到達度の他者評価について、実施状況を評価し継続していく。

○質疑応答：・実習指導者には教育的視点をもって指導に当たってほしい。実習指導者が評価指標を理解した上で、指導に当たることができるための指導者との調整の実際について教えてほしい。

⇒患者選定時等、実習開始前、実習中に評価指標を指導者とともに確認している。

⇒各看護学実習で独立したルーブリック評価表であるため、量も多く、指導者のみならず学生も全て把握することは難しいのではないか。中高の学習とは異なる医療・看護の学習は馴染みがなく難易度も高く感じていると思われる。

【重点目標2】 国立病院機構及び京都府の医療・看護を担う学生の確保と育成

○取り組み：1) 卒業率 90%以上確保に向けた学生支援

- ・面接計画および実施状況
- ・カウンセリングの設置

2) 国立病院機構への帰属意識の醸成と就職率 70%以上の維持（若しくは京都府就職率が上回る）

- ・帰属意識の醸成のための取り組み
- ・就職状況

3) 閉校に向けた関係機関との調整

- ・舞鶴医療センター附属看護学校同窓会との調整
- ・閉校後の校舎活用について
- ・閉校に向けての準備

○課題：・帰属意識の醸成と国立病院機構への就職率向上を目指した教育的活動を継続していく。
・卒業率の向上を目指した学生支援を継続していく。
・閉校に向け、プロジェクトチームを中心に活動していく。

【重点目標3】 学生・教職員等が安心して学べる教育環境の整備

○取り組み：1) 学生と教員が互いに報告・連絡・相談のできる、ともに学ぶ職場環境づくり

- ・学生会活動における支援（助言・相談）の実施
- ・ICT を活用した学習支援の実施（出席停止中の学習保障）
- ・Google Classroom を活用したタイムリーな連絡、情報収集、課題配布の実施

2) 教員全体で考え取り組む業務計画の調整

- ・教務計画に基づいた計画的な業務遂行
- ・朝、夕のミーティングでの業務調整の実施
- ・Google カレンダーを導入しての業務調整
- ・学年で PHS を保有
- ・教員会議での企画の検討と調整の実施
- ・事務助手へのタスクシフト

○課題：・教員間の情報共有による学生への統一した指導を継続していく。
・時間外勤務の減少に向けた組織的な業務調整を継続していく

○意見：・新人看護師の離職について、当院は新人看護師の離職率が低いことがセールスポイントだったが、今年度は退職者が出ている。看護基礎教育では臨床判断できる基礎的能力を育む教育の流れがあるが、学校で学んだことを活用し臨床現場で実践することの困難さがある。基礎教育と臨床の乖離をうめるような連携ができるとよい。

○質疑応答：・学生の AI リテラシーについて、論文形式の課題を課すと、生成 AI が出した文章を推敲せずそのまま使う現状がある。AI リテラシーを高めるためには、どのような教育的関わりをもつことがよいのか。

⇒高校生に対して、面接練習等に活用する指導をしている。学生の成果物から生成 AI のみで作成したものかを見破ることは難しい。生成 AI のみでは解決できない課題提示の仕方をするように工夫している。

【重点目標4】 教員の教育実践能力の向上

○取り組み：1) 授業研究の実施

- ・授業研究実績

2) 教育に関する研究発表

- ・学会発表実績

3) 管理能力の育成

- ・実務研修およびその他研修参加状況

○課題：・授業研究の実施および研究活動、学会発表に取り組む。
・時間内の研究時間確保に向けた調整を行っていく。